

無人マルチローターによる農薬の空中散布に係る安全ガイドライン

第1 趣旨

無人マルチローター（ほぼ垂直な軸回りに回転する三つ以上の回転翼によって主な揚力及び推進力を得る回転翼無人航空機をいう。以下同じ。）による農薬の空中散布は、防除作業の負担軽減及び生産性の向上に資する技術として期待されており、近年、当該散布の実施面積は、増加傾向にある。

他方で、農薬を使用する者は、農薬取締法（昭和23年法律第82号。以下「法」という。）第25条第1項に基づき定められている農薬を使用する者が遵守すべき基準を定める省令（平成15年農林水産省・環境省令第5号。以下「省令」という。）に基づき、農作物や人畜、周辺環境等に危被害を及ぼさないようにする責務を有するとともに、関係通知に沿った安全かつ適正な使用に努める必要がある。また、農薬を使用する者は、法第27条に基づき、農薬の安全かつ適正な使用に関する知識と理解を深めるように努めなければならない。

以上のことから、今後、無人マルチローターによる農薬の空中散布がいっそう農業現場に普及していく環境に対応するため、無人マルチローターによる農薬の空中散布を行う者が、安全かつ適正な農薬使用を行うために参考とすることができる目安を示すため、本ガイドラインを定める。

第2 空中散布の実施

1 空中散布の計画

- (1) 実施主体（防除実施者及び防除を自らは行わずに他者に委託する者。以下同じ。）は、空中散布の実施区域周辺を含む地理的状況（住宅地、公共施設、水道水源、蜂、蚕、魚介類その他水産動植物の養殖場等に近接しているかなど）、耕作状況（収穫時期の近い農作物や有機農産物の生産ほ場が近接しているかなど）等の作業環境を十分に勘案し、実施区域及び実施除外区域の設定、散布薬剤の種類及び剤型の選定（粒剤、微粒剤等の飛散の少ない剤型）等の空中散布の計画について検討を行い、実施場所、実施予定月日、作物名、散布農薬名、10a当たりの使用量又は希釈倍数等について記載した計画書を作成する。

なお、3に規定する対応により危被害を防止することができないおそれがある場合は、空中散布の計画を見直す。

- (2) 空中散布の作業を他者に委託する場合は、防除委託者は、防除実施者と十分に連携して空中散布の計画を検討する。

2 空中散布の実施に関する情報提供

- (1) 空中散布の実施区域及びその周辺に学校、病院等の公共施設、家屋、蜜蜂の巣箱等

がある場合、実施主体は、当該施設の利用者、居住者、養蜂家等に対し、農薬を散布しようとする日時、農薬使用の目的、使用農薬の種類及び実施主体の連絡先を十分な時間的余裕を持って情報提供し、必要に応じて日時を調整する。

- (2) 天候等の事情により空中散布の日時等に変更が生じる場合、実施主体は、変更に係る事項について情報提供を行う。
- (3) 空中散布の実施区域周辺において人の往来が想定される場合、実施主体は、作業中の実施区域内への進入を防止するため、告知、表示等により空中散布の実施について情報提供を行うなどの必要な措置を講ずる。

3 実施時に留意する事項

- (1) 実施主体は、操縦者、補助者（無人マルチローターの飛行状況、周辺区域の変化等を監視し、的確な誘導を行うとともに、飛行経路の直下及びその周辺に第三者が立ち入らないよう注意喚起を行い、操縦者を補助する者）等の関係者及び周辺環境等への影響に十分配慮し、風下から散布を開始する横風散布を基本に飛行経路を設定する。
- (2) 操縦者は、あらかじめ機体等メーカーが作成した取扱説明書等により、無人マルチローター及び散布装置に関する機能及び性能について理解する。
- (3) 操縦者は、第4の3(1)により機体等メーカーが取扱説明書等に記載した散布方法（飛行速度、飛行高度、飛行間隔及び最大風速。別添参照。）を参考に散布を行う。
- (4) (3)において、機体等メーカーによる散布方法が設定されておらず、取扱説明書等に記載がない場合は、当面の間、「マルチローター式小型無人機における農薬散布の暫定運行基準取りまとめ」(平成28年3月8日マルチローター式小型無人機の暫定運行基準案策定検討会)において、無人マルチローターの標準的な散布方法として策定された、以下の散布方法により実施する。
 - ・飛行高度は、作物上2m以下。
 - ・散布時の風速は、地上1.5mにおいて3m/s以下。
 - ・飛行速度及び飛行間隔は、機体の飛行諸元を参考に農薬の散布状況を随時確認し、適切に加減する。
- (5) 操縦者は、散布の際、農薬の散布状況及び気象条件の変化を随時確認しながら、農薬ラベルに表示される使用方法（単位面積当たりの使用量、希釈倍数等）を遵守し、散布区域外への飛散（以下「ドリフト」という。）が起こらないよう十分に注意する。
- (6) ドリフト等を防ぐため、架線等の危険箇所、実施除外区域、飛行経路及び操縦者、補助者等の経路をあらかじめ実地確認するなど、実施区域及びその周辺の状況把握に努めるとともに、必要に応じて危険箇所及び実施除外区域を明示しておく。
- (7) 実施主体は、散布装置については、適正に散布できること（所定の吐出量において間欠的ではないことなど）を使用前に確認するとともに、適時、その点検を行う。
- (8) 周辺農作物の収穫時期が近い場合、実施区域周辺において有機農産物が栽培されている場合、学校、病院等の公共施設、家屋、水道水源、蜂、蚕、魚介類その他水産動

植物の養殖場等が近い場合など、農薬の飛散により危被害を与える可能性が高い場合には、状況に応じて、無風又は風が弱い天候の日や時間帯の選択、使用農薬の種類の変更、飛散が少ない剤型の農薬の選択等の対応を検討するなど、農薬が飛散しないよう細心の注意を払う。

- (9) 強風により散布作業が困難であると判断される場合には、無理に作業を続行せず、気象条件が安定するまで待機する。
- (10) 操縦者、補助者等の農薬暴露を回避するため、特に次の事項に留意する。
 - ア 操縦者、補助者等は、防護装備を着用すること。
 - イ 空中散布の実施中において、操縦者、補助者等は農薬の危被害防止のため連携すること。
- (11) 作業終了後、散布装置（タンク、配管、ノズル等）は十分に洗浄し、洗浄液、配管内の残液等は周辺に影響を与えないよう安全に処理する。
- (12) 実施主体は、空中散布の実施により、農業、漁業その他の事業に被害が発生し、又は周囲の自然環境若しくは生活環境に悪影響が生じた場合は、直ちに当該区域での実施を中止し、その原因の究明に努めるとともに、適切な事後処理を行う。

第3 事故発生時の対応

空中散布を実施した場合の事故発生時の対応については、次のとおり実施する。

- 1 事故の類型は、以下のとおりとする。
 - (1) 農薬事故
 - 空中散布中の農薬のドリフト、流出等の農薬事故
 - (2) その他
 - 無人マルチローターの飛行による人の死傷、第三者の物件の損傷、飛行時における機体の紛失又は航空機との衝突若しくは接近事案
- 2 1(1)に規定する事故が発生した場合は、実施主体は、別記様式の事故報告書を作成し、実施区域内の都道府県農薬指導部局に提出する。
- 3 事故報告書は、事故発生後直ちに第1報（事故の概要、初動対応等）を、事故発生から1ヶ月以内に最終報（事故の詳細、被害状況、事故原因、再発防止策の策定）をそれぞれ作成すること。なお、空中散布の作業を他者に委託した場合は、防除委託者は、防除実施者と十分連携して当該事故報告書を作成する。
- 4 都道府県農薬指導部局は2により事故報告書の提出があった場合は、記載に不備がないことを確認し、地方農政局消費・安全部安全管理課（北海道にあっては直接。沖縄県にあっては内閣府沖縄総合事務局農林水産部消費・安全課。）を經由して、農林水産省消費・安全局植物防疫課（以下「植物防疫課」という。）に当該事故報告書を提出する。
- 5 植物防疫課は、4により事故報告書の提出があった場合は、これを取りまとめ、都道

府県等の協力を得て、空中散布における安全対策を検討する。また、関係機関との間で、当該検討結果に係る情報を共有するとともに、実施主体に対し、再発防止を図るよう指示する。

- 6 植物防疫課は、5により取りまとめた事故報告を地方航空局保安部運用課に提供する。
- 7 1（2）に該当する事故が発生した場合、実施主体は、直ちに以下の飛行の許可等を行った地方航空局保安部運用課又は空港事務所まで報告する。なお、夜間等の執務時間外における報告については、24時間運用されている最寄りの空港事務所に連絡を行う。

東京航空局保安部運用課 03-6685-8005

大阪航空局保安部運用課 06-6949-6609

最寄りの空港事務所（執務時間外は別表に示した、飛行させた都道府県に対応する24時間対応の空港事務所へ連絡する。）

第4 関係機関の役割

空中散布に関係する機関は、次の役割を果たす。

1 植物防疫課

- （1）農業用ドローンの普及拡大に向けた官民協議会の場等を通じ、空中散布の安全かつ適正な実施のために必要な情報及び資料の収集及び提供を行うこと。
- （2）空中散布の円滑な実施及び事故発生時における迅速かつ的確な対応のため、関係機関との間で連絡体制を整備すること。

2 都道府県

- （1）実施主体に対し、1（1）により提供を受けた情報及び資料その他空中散布に関する技術的情報を提供すること。
- （2）実施主体から事故に関する情報が提出された場合には、安全かつ適正な空中散布の実施のための指導及び助言を行うこと。

3 機体等メーカー

- （1）機体・散布装置の使用条件（対象農作物、農薬の剤型等）ごとの散布方法に関する情報について、取扱説明書等に記載するなど、使用者が把握しやすい手段により情報提供すること。散布方法の設定に当たっては、落下分散性能の把握、ドリフト状況の把握等の結果から設定するとともに、その根拠となった試験結果（試験条件を含む）をWebサイト等で公表するよう努めること。
- （2）1（1）により提供を受けた情報及び資料その他空中散布に関する技術的情報を提供するとともに、使用者からの照会に対応する窓口を整備すること。

第5 情報管理

本ガイドラインに基づく情報提供に当たっては、個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 57 号）、行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 58 号）、各都道府県が定める個人情報保護条例等に留意する。

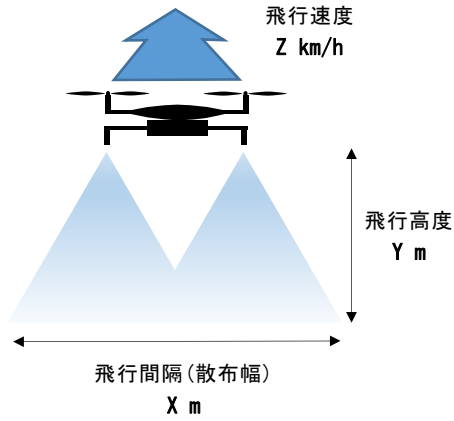
第 6 改訂

本ガイドラインは、無人マルチローターによる農薬の空中散布に係る技術の開発状況等を踏まえ、必要に応じて見直すこととする。

附則

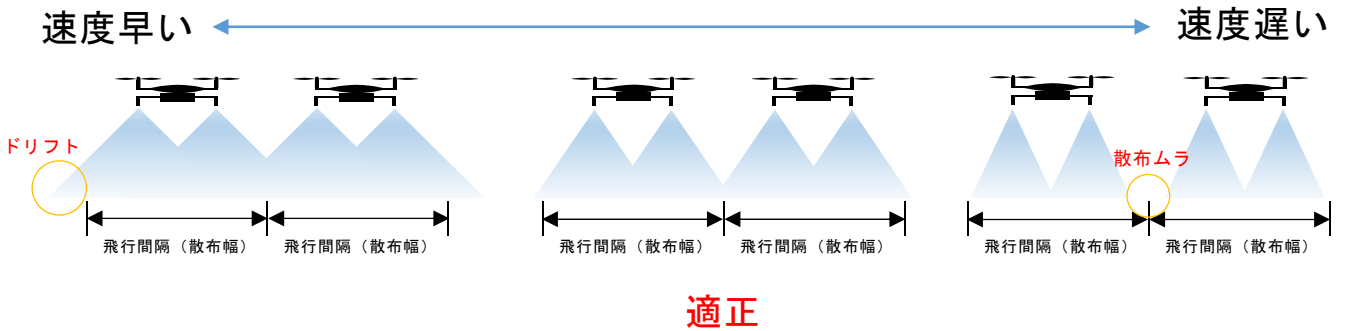
このガイドラインは、令和元年 7 月 30 日から施行する。また、同日付けで、「空中散布における無人航空機利用技術指導指針」（平成 27 年 12 月 3 日付け 27 消安第 4545 号消費・安全局長通知）は廃止する。

＜散布方法と薬剤の拡散状況の関係＞

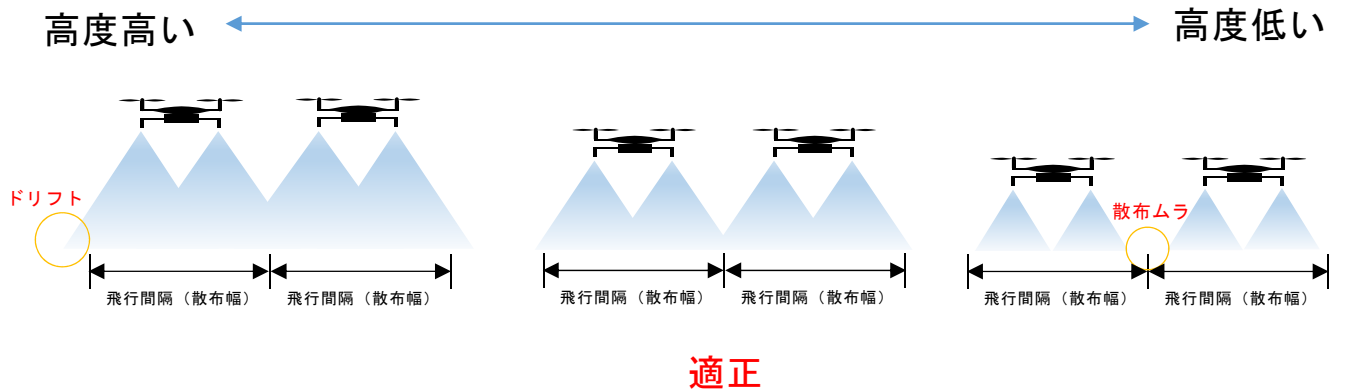


空中散布においては、散布方法（飛行速度、飛行高度、飛行間隔及び最大風速）の各要素が薬剤の拡散に影響を及ぼすため、均一散布及びドリフト抑制の観点では、全ての項目が明らかにされることが望ましい。

○飛行速度の違い（飛行高度及び飛行間隔が一定の場合）



○飛行高度の違い（飛行速度及び飛行間隔が一定の場合）



別記様式(第3の2関係)

無人マルチローターによる空中散布に伴う事故報告書
(第 報)

報告者所属・氏名:

連絡先:

報告日時: 年 月 日 () 時 分

【基本情報】 ※ 初期の報告(第1報など)については、事故発生の報告を優先し、報告時点で記入可能な情報のみで可

1	発生日時	年 月 日 () 時 分 (散布作業開始時間: 時 分)		
2	発生場所(都道府県名から)			
3	操縦者氏名及び 技能認証番号	氏名:	技能認証番号:	
4	使用機体	機種:	機体記号:	
5	作業時の気象状況	天気	(気温)	風向・風速
6	防除内容	作物	対象病虫害等	
7	薬剤	薬剤名		
		希釈倍率	散布前積載量	
8	実施主体	防除委託者		
		防除実施者		
9	作業実施体制	操縦者 名	補助者 名	(その他) 名
10	事故の概要			
11	被害の状況	有の場合、その内容		
	人への被害	無	確認中	有
	家畜への被害	無	確認中	有
	農作物への被害	無	確認中	有
	薬剤の流出	無	確認中	有
	周辺建物への被害	無	確認中	有
	その他の被害			
12	航空法の許可・承認書の 発行日及び番号	許可・承認書 発行日: 月 日 番 号:		

注1. 技能認証番号には、操縦者の能力等に関する基準を制定している団体等により講習会等を受講し、技能認証を受けている場合には、当該認証の番号を記載すること。技能認証番号を有しない場合には空欄とする。

注2. 機体記号には、機体を識別できる製造番号等を記載すること。

【対応状況等】

13	被害への対応状況	
14	その他(警察、消防等の対応、取材・報道状況等)	

注3. 事故発生時の見取り図を添付(可能であれば現場写真も添付)すること

注4. 報道された場合は、都道府県等の報道発表資料や新聞記事等を添付すること。なお、新聞記事等が添付できない場合には、報道の概要について記載すること

【事故原因】 ※ 初期の報告(第1報など)では提出しなくても可

15	
----	--

【再発防止対策】 ※ 初期の報告(第1報など)では提出しなくても可

16	
----	--

官 署	連絡先	管轄区域	執務時間	執務時間外の連絡先 (24 時間運用されている最寄りの空港事務所)
丘珠空港事務所	☎ : 011-781-4162	北海道のうち札幌市、江別市、石狩市、北広島市及び石狩振興局管内	7:30-20:30	新千歳空港事務所
新千歳空港事務所 (24 時間対応)	平 日 ☎ : 0123-23-4195 土日祝日 ☎ : 0123-23-4102	北海道のうち小樽市、旭川市、室蘭市、夕張市、岩見沢市、留萌市、苫小牧市、美唄市、芦別市、赤平市、士別市、名寄市、三笠市、千歳市、滝川市、砂川市、歌志内市、深川市、富良野市、登別市、恵庭市、伊達市、後志総合振興局管内、空知総合振興局管内、上川総合振興局管内、留萌振興局管内、胆振総合振興局管内及び日高振興局管内	24 時間	
稚内空港事務所	☎ : 0162-27-2740	北海道のうち稚内市及び宗谷総合振興局管内	8:30-18:30	新千歳空港事務所
函館空港事務所	☎ : 0138-57-1738	北海道のうち函館市、渡島総合振興局管内及び檜山振興局管内	7:30-20:30	新千歳空港事務所
釧路空港事務所	☎ : 0154-57-6284	北海道のうち釧路市、帯広市、北見市、網走市、紋別市、根室市、オホーツク総合振興局管内、十勝総合振興局管内、釧路総合振興局管内及び根室振興局管内	8:00-21:00	新千歳空港事務所
三沢空港事務所	☎ : 0176-53-2463	青森県	8:30-20:00	仙台空港事務所
仙台空港事務所 (24 時間対応)	☎ : 022-383-1301	岩手県、宮城県、秋田県、福島県	24 時間	
百里空港事務所	☎ : 0299-54-0672	茨城県	8:00-21:00	東京空港事務所

成田空港事務所 (24 時間対応)	(平日 9:00-12:00 13:00-17:00) ☎ : 0476-32-1048 (上記以外) ☎ : 0476-32-6410	千葉県	24 時間	
東京空港事務所 (24 時間対応)	【平日 9 時～17 時】 ☎ : 03-5757-3022 【夜間・休日】※ 緊急の場合に限る ☎ : 03-5756-1531	栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県、静岡県	24 時間	
新潟空港事務所	☎ : 025-273-5093	山形県、新潟県	7:30-21:30	仙台空港事務所
小松空港事務所	☎ : 0761-24-0829	富山県、石川県、福井県	7:30-21:30	中部空港事務所
中部空港事務所 (24 時間対応)	☎ : 0569-38-2158	岐阜県、愛知県、三重県	24 時間	
大阪空港事務所 (24 時間対応)	(平日 9:00-12:00 13:00-17:00) ☎ : 06-6843-1127 (夜間・休日) ☎ : 06-6843-1124	滋賀県、京都府、大阪府（八尾空港事務所及び関西空港事務所の管轄に属する区域を除く。）、兵庫県、岡山県	24 時間	
八尾空港事務所	☎ : 072-922-9021	大阪府のうち八尾市、富田林市、河内長野市、松原市、柏原市、羽曳野市、藤井寺市、東大阪市、大阪狭山市及び南河内郡（航空交通管制に関する事務に係る管轄区域にあつては大阪市及び堺市のうち北緯三四度三五分四八秒東経一三五度三六分二秒の地点を中心とする半径九キロメートルの円内の部分を含む。） 奈良県	8:00-19:30	大阪空港事務所
関西空港事務所 (24 時間対応)	(平日 9 時～17 時) ☎ : 072-455-1330 (上記以外) ☎ : 072-455-1334	大阪府のうち堺市（航空交通管制に関する事務に係る管轄区域にあつては八尾空港事務所の管轄に属する区域を除く。）、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、和泉市、高石市、泉南市、阪南市、泉北郡及び泉南郡和歌山県	24 時間	

美保空港事務所	☎ : 0859-45-6114	鳥取県 島根県	7:00-22:00	大阪空港事務所
広島空港事務所	☎ : 0848-86-8654	広島県	7:30-21:30	福岡空港事務所
岩国空港事務所	☎ : 0827-24-8224	山口県（北九州空港事務所の管轄に属する区域を除く。）	7:30-22:30	福岡空港事務所
徳島空港事務所	☎ : 088-699-6527	徳島県	7:00-21:30	大阪空港事務所
高松空港事務所	☎ : 087-879-6771	香川県	7:00-22:00	大阪空港事務所
松山空港事務所	☎ : 089-972-0393	愛媛県	7:30-21:30	福岡空港事務所
高知空港事務所	☎ : 088-863-2620	高知県	7:00-21:00	福岡空港事務所
福岡空港事務所 (24時間対応)	(平日 9:00～17:00) ☎ : 092-629-4012 (土日祝日、年末年始) ☎ : 092-622-6529	福岡県（北九州空港事務所の管轄に属する区域を除く。）、佐賀県、長崎県のうち対馬市及び壱岐市	24時間	
北九州空港事務所	☎ : 093-473-1089	山口県のうち下関市、宇部市、長門市、美弥市及び山陽小野田市、福岡県のうち北九州市、行橋市、豊前市、京都郡及び築上郡	24時間	
長崎空港事務所	☎ : 0957-53-6901	長崎県（福岡空港事務所の管轄に属する区域を除く。）	7:00-22:00	福岡空港事務所
熊本空港事務所	☎ : 096-232-2854	熊本県	7:30-21:30	鹿児島空港事務所
大分空港事務所	☎ : 0978-67-3773	大分県	7:30-22:30	福岡空港事務所
宮崎空港事務所	☎ : 0985-51-2184	宮崎県	7:30-21:30	鹿児島空港事務所
鹿児島空港事務所 (24時間対応)	☎ : 0995-58-4461	鹿児島県	24時間	
那覇空港事務所 (24時間対応)	(平日 9時～17時) ☎ : 098-859-5132 (上記以外) ☎ : 098-857-1107	沖縄県	24時間	

無人ヘリコプターによる農薬の空中散布に係る安全ガイドライン

第1 趣旨

農薬を使用する者は、農薬取締法（昭和23年法律第82号。以下「法」という。）第25条第1項に基づき定められている農薬を使用する者が遵守すべき基準を定める省令（平成15年農林水産省・環境省令第5号。以下「省令」という。）に基づき、農作物や人畜、周辺環境等に危被害を及ぼさないようにする責務を有するとともに、関係通知に沿った安全かつ適正な使用に努める必要がある。また、農薬を使用する者は、法第27条に基づき、農薬の安全かつ適正な使用に関する知識と理解を深めるように努めなければならない。

このことから、無人ヘリコプター（ほぼ垂直な軸回りに回転する三つ以上の回転翼によって主な揚力及び推進力を得る回転翼無人航空機以外の回転翼無人航空機をいう。）による農薬の空中散布を行う者が、安全かつ適正な農薬使用を行うために参考とすることができる目安を示すため、本ガイドラインを定める。

第2 空中散布の実施

1 空中散布の計画

(1) 実施主体（防除実施者及び防除を自らは行わずに他者に委託する者。以下同じ。）

は、空中散布の実施区域周辺を含む地理的状况（住宅地、公共施設、水道水源、蜂、蚕、魚介類その他水産動植物の養殖場等に近接しているかなど）、耕作状況（収穫時期の近い農作物や有機農産物の生産ほ場が近接しているかなど）等の作業環境を十分に勘案し、実施区域及び実施除外区域の設定、散布薬剤の種類及び剤型の選定（粒剤、微粒剤等の飛散の少ない剤型）等の空中散布の計画について検討を行い、実施場所、実施予定月日、作物名、散布農薬名、10a当たりの使用量又は希釈倍数等について記載した空中散布計画書（別記様式1）を作成する。

なお、3に規定する対応により危被害を防止することができないおそれがある場合は、空中散布の計画を見直す。

(2) 空中散布の作業を他者に委託する場合は、防除委託者は、防除実施者と十分に連携して空中散布の計画を検討する。

(3) 空中散布を行う実施者は、(1)の空中散布計画書を、空中散布を実施する月の前月末までに、空中散布の実施区域内の都道府県農薬指導部に届け出ること。当該届出については、電子メールによる提出を可能とする。

(4) 都道府県農薬指導部は、(3)により空中散布計画書の届出があった場合は、当該計画の記載に不備がないことを確認した上で、地方農政局消費・安全部安全管理課（北海道にあっては直接。沖縄県にあっては内閣府沖縄総合事務局農林水産部消費・

安全課。)を經由して、農林水産省消費・安全局植物防疫課(以下「植物防疫課」という。)に提出すること。

- (5) 都道府県農薬指導部局は、(3)により届出のあった空中散布計画書により、管内の空中散布の計画を把握し、安全かつ適正に実施されるよう、地域の実情に応じた指導を行うこと。
- (6) 都道府県農薬指導部局は、実施主体と養蜂家との間における情報共有の徹底を図り、空中散布の実施による蜜蜂被害の発生を防止するため、(3)により届出のあった空中散布計画書を都道府県の畜産担当と共有すること。

また、都道府県の畜産担当は、養蜂組合等の協力を得て、当該情報のうち必要な情報(農薬散布の実施予定月日、実施場所、作物名、散布農薬名等)を整理し、個々の養蜂家に対し、情報提供すること。

なお、地域の実情に応じ、より適切な情報共有手段を講じることが可能であれば、上記の限りではない。

2 空中散布の実施に関する情報提供

- (1) 空中散布の実施区域及びその周辺に学校、病院等の公共施設、家屋、蜜蜂の巣箱等がある場合、実施主体は、当該施設の利用者、居住者、養蜂家等に対し、農薬を散布しようとする日時、農薬使用の目的、使用農薬の種類及び実施主体の連絡先を十分な時間的余裕を持って情報提供し、必要に応じて日時を調整する。
- (2) 天候等の事情により空中散布の日時等に変更が生じる場合、実施主体は、変更に係る事項について情報提供を行う。
- (3) 空中散布の実施区域周辺において人の往来が想定される場合、実施主体は、作業中の実施区域内への進入を防止するため、告知、表示等により空中散布の実施について情報提供を行うなどの必要な措置を講ずる。

3 実施時に留意する事項

- (1) 実施主体は、操縦者、補助者(無人ヘリコプターの飛行状況及び周辺区域の変化等を監視し、的確な誘導を行うとともに、飛行経路の直下及びその周辺に第三者が立ち入らないよう注意喚起を行い、操縦者を補助する者)等の関係者及び周辺環境等への影響に十分配慮し、風下から散布を開始する横風散布を基本に飛行経路を設定する。
- (2) 操縦者は、あらかじめ機体等メーカーが作成した取扱説明書等により、無人ヘリコプター及び散布装置に関する機能及び性能について理解する。
- (3) 操縦者は、第4の3(1)により機体等メーカーが取扱説明書等に記載した散布方法(飛行速度、飛行高度、飛行間隔及び最大風速。別添参照。)を参考に散布を行う。
- (4) (3)において、機体等メーカーによる散布方法が設定されておらず、取扱説明書等に記載がない場合は、無人ヘリコプターの標準的な散布方法として策定された、以下の散布方法により実施する。
 - ・飛行高度は、作物上3～4 m以下。

- ・散布時の風速は、地上 1.5mにおいて 3 m/s 以下。
 - ・飛行速度及び飛行間隔は、機体の飛行諸元を参考に農薬の散布状況を随時確認し、適切に加減する。
- (5) 操縦者は、散布の際、農薬の散布状況及び気象条件の変化を随時確認しながら、農薬ラベルに表示される使用方法（単位面積当たりの使用量、希釈倍数等）を遵守し、散布区域外への飛散（以下「ドリフト」という。）が起こらないよう十分に注意する。
- (6) ドリフト等を防ぐため、架線等の危険箇所、実施除外区域、飛行経路及び操縦者、補助者等の経路をあらかじめ実地確認するなど、実施区域及びその周辺の状況把握に努めるとともに、必要に応じて危険箇所及び実施除外区域を明示しておく。
- (7) 実施主体は、散布装置については、適正に散布できること（所定の吐出量において間欠的ではないことなど）を使用前に確認するとともに、適時、その点検を行う。
- (8) 周辺農作物の収穫時期が近い場合、実施区域周辺において有機農産物が栽培されている場合や学校、病院等の公共施設、家屋、水道水源、蜂、蚕、魚介類その他水産動植物の養殖場等が近い場合など、農薬の飛散により危被害を与える可能性が高い場合には、状況に応じて、無風又は風が弱い天候の日や時間帯の選択、使用農薬の種類の変更、飛散が少ない剤型の農薬の選択等の対応を検討するなど、農薬が飛散しないよう細心の注意を払う。
- (9) 強風により散布作業が困難であると判断される場合には、無理に作業を続行せず、気象条件が安定するまで待機する。
- (10) 操縦者、補助者等の農薬暴露を回避するため、特に次の事項に留意する。
- ア 操縦者、補助者等は、防護装備を着用すること。
 - イ 空中散布の実施中において、操縦者、補助者等は農薬の危被害防止のため連携すること。
- (11) 作業終了後、散布装置（タンク、配管、ノズル等）は十分に洗浄し、洗浄液、配管内の残液等は周辺に影響を与えないよう安全に処理する。
- (12) 実施主体は、空中散布の実施により、農業、漁業その他の事業に被害が発生し、又は周囲の自然環境若しくは生活環境に悪影響が生じた場合は、直ちに当該区域での実施を中止し、その原因の究明に努めるとともに、適切な事後処理を行う。

4 空中散布の実績

- (1) 実施主体は、空中散布を実施した場合は、速やかに実施場所、実施月日、作物名、散布農薬名、10 a 当たりの使用量又は希釈倍数等について記載した実績報告書（別記様式 2）を作成し、空中散布の実施区域内の都道府県農薬指導部局に提出すること。なお、当該報告については、電子メールによる提出を可能とする。
- (2) 都道府県農薬指導部局は、(1)により実績報告書の提出があった場合は、記載に不備がないことを確認した上で、地方農政局消費・安全部安全管理課（北海道に

あつては直接。沖縄県にあつては内閣府沖縄総合事務局農林水産部消費・安全課。)を經由して、毎年4月から翌年3月までの実績を翌年4月末までに植物防疫課に提出すること。

- (3) 植物防疫課は、(2)により実績報告書の提出があつた場合は、これを取りまとめ、安全かつ適正な空中散布が実施されているかどうかを確認すること。

第3 事故発生時の対応

空中散布を実施した場合の事故発生時の対応については、次のとおり実施する。

- 1 事故の類型は、以下のとおりとする。

(1) 農薬事故

空中散布中の農薬のドリフト、流出等の農薬事故

(2) その他

無人ヘリコプターの飛行による人の死傷、第三者の物件の損傷、飛行時における機体の紛失又は航空機との衝突若しくは接近事案

- 2 1(1)に規定する事故が発生した場合は、実施主体は、別記様式3の事故報告書を作成し、実施区域内の都道府県農薬指導部局に提出する。

- 3 事故報告書は、事故発生後直ちに第1報(事故の概要、初動対応等)を、事故発生から1ヶ月以内に最終報(事故の詳細、被害状況、事故原因、再発防止策の策定)をそれぞれ作成すること。なお、空中散布の作業を他者に委託した場合は、防除委託者は、防除実施者と十分連携して当該事故報告書を作成する。

- 4 都道府県農薬指導部局は2により事故報告書の提出があつた場合は、記載に不備がないことを確認し、地方農政局消費・安全部安全管理課(北海道にあつては直接。沖縄県にあつては内閣府沖縄総合事務局農林水産部消費・安全課。)を經由して、植物防疫課に当該事故報告書を提出する。

- 5 植物防疫課は、4により事故報告書の提出があつた場合は、これを取りまとめ、都道府県等の協力を得て、空中散布における安全対策を検討する。また、関係機関との間で、当該検討結果に係る情報を共有するとともに、実施主体に対し、再発防止を図るよう指示する。

- 6 植物防疫課は、5により取りまとめた事故報告を地方航空局保安部運用課に提供する。

- 7 1(2)に該当する事故が発生した場合、実施主体は、直ちに以下の飛行の許可等を行った地方航空局保安部運用課又は空港事務所まで報告する。なお、夜間等の執務時間外における報告については、24時間運用されている最寄りの空港事務所に連絡を行う。

東京航空局保安部運用課 03-6685-8005

大阪航空局保安部運用課 06-6949-6609

最寄りの空港事務所（執務時間外は別表に示した、飛行させた都道府県に対応する24時間対応の空港事務所へ連絡する。）

第4 関係機関の役割

空中散布に関係する機関は、次の役割を果たす。

1 植物防疫課

- (1) 空中散布の安全かつ適正な実施のために必要な情報及び資料の収集及び提供を行うこと。
- (2) 空中散布の円滑な実施及び事故発生時における迅速かつ的確な対応のため、関係機関との間で連絡体制を整備すること。

2 都道府県

- (1) 実施主体に対し、1(1)により提供を受けた情報及び資料その他空中散布に関する技術的情報を提供すること。
- (2) 実施主体から事故に関する情報が提出された場合には、安全かつ適正な空中散布の実施のための指導及び助言を行うこと。

3 機体等メーカー

- (1) 機体・散布装置の使用条件（対象農作物、農薬の剤型等）ごとの散布方法に関する情報について、取扱説明書等に記載するなど、使用者が把握しやすい手段により情報提供すること。散布方法の設定に当たっては、落下分散性能の把握、ドリフト状況の把握等の結果から設定するとともに、その根拠となった試験結果（試験条件を含む）をWebサイト等で公表するよう努めること。
- (2) 1(1)により提供を受けた情報及び資料その他空中散布に関する技術的情報を使用者に提供するとともに、使用者からの照会に対応する窓口を整備すること。

第5 情報管理

本ガイドラインに基づく情報提供に当たっては、個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第57号）、行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年法律第58号）、各都道府県が定める個人情報保護条例等に留意する。

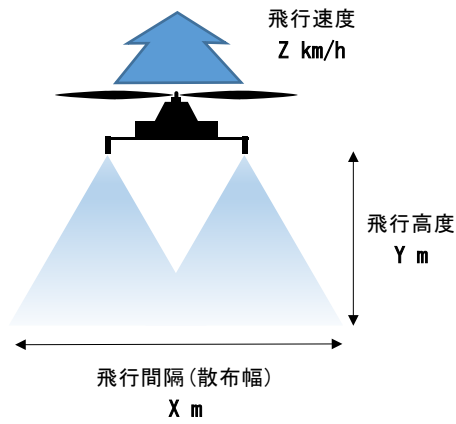
第6 改訂

本ガイドラインは、無人ヘリコプターによる農薬の空中散布に係る技術の開発状況等を踏まえ、必要に応じて見直すこととする。

附則

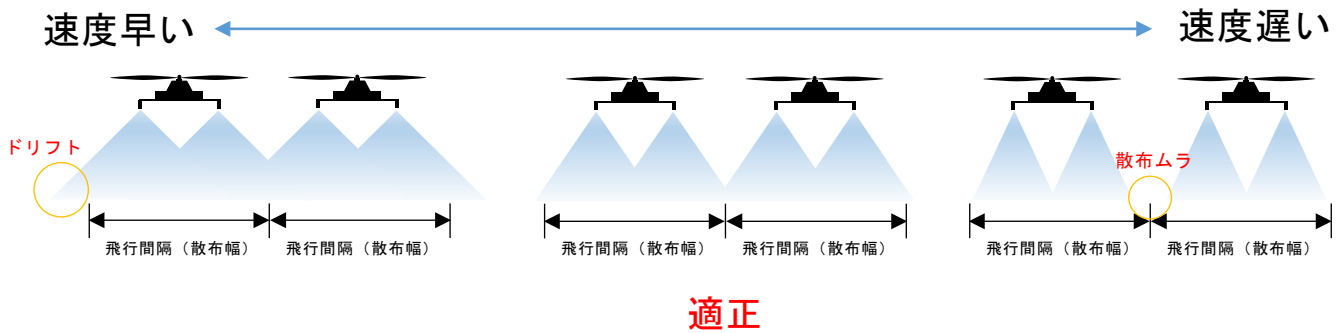
このガイドラインは、令和元年7月30日から施行する。

<散布方法と薬剤の拡散状況の関係>

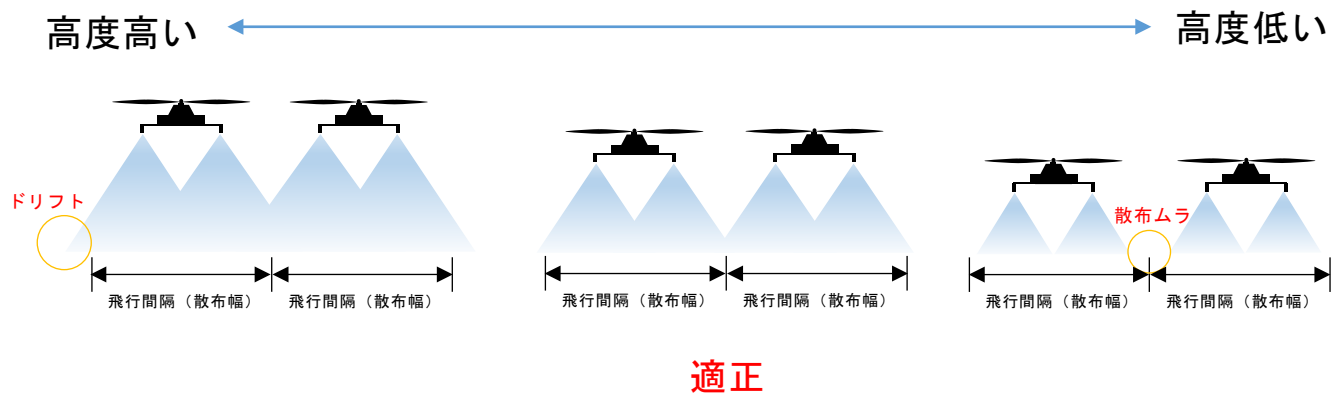


空中散布においては、散布方法（飛行速度、飛行高度、飛行間隔及び最大風速）の各要素が薬剤の拡散に影響を及ぼすため、均一散布及びドリフト抑制の観点では、全ての項目が明らかにされることが望ましい。

○飛行速度の違い（飛行高度及び飛行間隔が一定の場合）



○飛行高度の違い（飛行速度及び飛行間隔が一定の場合）



別記様式1（第2の1（1）関係）

年度空中散布計画書

（ ）県

実施主体名		操縦者名		機体確認の番号	該当市町村名	実施予定月日	対象作業名	作物名	実施面積	散布資材名	10a当たりの使用量又は希釈倍数	備考
防除委託者名	防除実施者名	氏名	技能認証の番号									
計												

記載注意

- （1）技能認証の番号には、登録代行機関の技能認証の番号を記載すること。
- （2）機体確認の番号には、登録代行機関により付与された番号を記載すること。

別記様式2（第2の4（1）関係）

年度空中散布実績報告書

（ ）県

実施主体名		操縦者名		機体確認の番号	該当市町村名	実施月日	対象作業名	作物名	実施面積	散布資材名	10a当たりの使用量又は希釈倍数	備考
防除委託者名	防除実施者名	氏名	技能認証の番号									
計												

記載注意

- （1）技能認証の番号には、登録代行機関の技能認証の番号を記載すること。
- （2）機体確認の番号には、登録代行機関により付与された番号を記載すること。
- （3）補完防除（病害虫の発生が多い場合に予定された防除に加えて行う防除をいう。）にあつては、その旨備考欄に記載すること。

別記様式3(第3の2関係)

無人ヘリコプターによる空中散布に伴う事故報告書
(第 報)

報告者所属・氏名:

連絡先:

報告日時: 年 月 日 () 時 分

【基本情報】 ※ 初期の報告(第1報など)については、事故発生の報告を優先し、報告時点で記入可能な情報のみで可

1	発生日時	年 月 日 () 時 分 (散布作業開始時間: 時 分)		
2	発生場所(都道府県名から)			
3	操縦者氏名及び 技能認証番号	氏名:	技能認証番号:	
4	使用機体	機種:	機体記号:	
5	作業時の気象状況	天気	(気温)	風向・風速
6	防除内容	作物	対象病虫害等	
7	薬剤	薬剤名		
		希釈倍率	散布前積載量	
8	実施主体	防除委託者		
		防除実施者		
9	作業実施体制	操縦者 名	補助者 名	(その他) 名
10	事故の概要			
11	被害の状況	有の場合、その内容		
	人への被害	無	確認中	有
	家畜への被害	無	確認中	有
	農作物への被害	無	確認中	有
	薬剤の流出	無	確認中	有
	周辺建物への被害	無	確認中	有
	その他の被害			
12	航空法の許可・承認書の 発行日及び番号	許可・承認書 発行日: 月 日 番 号:		

注1. 技能認証番号には、操縦者の能力等に関する基準を制定している団体等により講習会等を受講し、技能認証を受けている場合には、当該認証の番号を記載すること。技能認証番号を有しない場合には空欄とする。

注2. 機体記号には、機体を識別できる製造番号等を記載すること。

【対応状況等】

13	被害への対応状況	
14	その他(警察、消防等の対応、取材・報道状況等)	

注3. 事故発生時の見取り図を添付(可能であれば現場写真も添付)すること

注4. 報道された場合は、都道府県等の報道発表資料や新聞記事等を添付すること。なお、新聞記事等が添付できない場合には、報道の概要について記載すること

【事故原因】 ※ 初期の報告(第1報など)では提出しなくても可

15	
----	--

【再発防止対策】 ※ 初期の報告(第1報など)では提出しなくても可

16	
----	--

官 署	連絡先	管轄区域	執務時間	執務時間外の連絡先 (24 時間運用されている最寄りの空港事務所)
丘珠空港事務所	☎ : 011-781-4162	北海道のうち札幌市、江別市、石狩市、北広島市及び石狩振興局管内	7:30-20:30	新千歳空港事務所
新千歳空港事務所 (24 時間対応)	平 日 ☎ : 0123-23-4195 土日祝日 ☎ : 0123-23-4102	北海道のうち小樽市、旭川市、室蘭市、夕張市、岩見沢市、留萌市、苫小牧市、美唄市、芦別市、赤平市、士別市、名寄市、三笠市、千歳市、滝川市、砂川市、歌志内市、深川市、富良野市、登別市、恵庭市、伊達市、後志総合振興局管内、空知総合振興局管内、上川総合振興局管内、留萌振興局管内、胆振総合振興局管内及び日高振興局管内	24 時間	
稚内空港事務所	☎ : 0162-27-2740	北海道のうち稚内市及び宗谷総合振興局管内	8:30-18:30	新千歳空港事務所
函館空港事務所	☎ : 0138-57-1738	北海道のうち函館市、渡島総合振興局管内及び檜山振興局管内	7:30-20:30	新千歳空港事務所
釧路空港事務所	☎ : 0154-57-6284	北海道のうち釧路市、帯広市、北見市、網走市、紋別市、根室市、オホーツク総合振興局管内、十勝総合振興局管内、釧路総合振興局管内及び根室振興局管内	8:00-21:00	新千歳空港事務所
三沢空港事務所	☎ : 0176-53-2463	青森県	8:30-20:00	仙台空港事務所
仙台空港事務所 (24 時間対応)	☎ : 022-383-1301	岩手県、宮城県、秋田県、福島県	24 時間	
百里空港事務所	☎ : 0299-54-0672	茨城県	8:00-21:00	東京空港事務所

成田空港事務所 (24 時間対応)	(平日 9:00-12:00 13:00-17:00) ☎ : 0476-32-1048 (上記以外) ☎ : 0476-32-6410	千葉県	24 時間	
東京空港事務所 (24 時間対応)	【平日 9 時～17 時】 ☎ : 03-5757-3022 【夜間・休日】※ 緊急の場合に限る ☎ : 03-5756-1531	栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県、静岡県	24 時間	
新潟空港事務所	☎ : 025-273-5093	山形県、新潟県	7:30-21:30	仙台空港事務所
小松空港事務所	☎ : 0761-24-0829	富山県、石川県、福井県	7:30-21:30	中部空港事務所
中部空港事務所 (24 時間対応)	☎ : 0569-38-2158	岐阜県、愛知県、三重県	24 時間	
大阪空港事務所 (24 時間対応)	(平日 9:00-12:00 13:00-17:00) ☎ : 06-6843-1127 (夜間・休日) ☎ : 06-6843-1124	滋賀県、京都府、大阪府（八尾空港事務所及び関西空港事務所の管轄に属する区域を除く。）、兵庫県、岡山県	24 時間	
八尾空港事務所	☎ : 072-922-9021	大阪府のうち八尾市、富田林市、河内長野市、松原市、柏原市、羽曳野市、藤井寺市、東大阪市、大阪狭山市及び南河内郡（航空交通管制に関する事務に係る管轄区域にあっては大阪市及び堺市のうち北緯三四度三五分四八秒東経一三五度三六分二秒の地点を中心とする半径九キロメートルの円内の部分を含む。） 奈良県	8:00-19:30	大阪空港事務所
関西空港事務所 (24 時間対応)	(平日 9 時～17 時) ☎ : 072-455-1330 (上記以外) ☎ : 072-455-1334	大阪府のうち堺市（航空交通管制に関する事務に係る管轄区域にあっては八尾空港事務所の管轄に属する区域を除く。）、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、和泉市、高石市、泉南市、阪南市、泉北郡及び泉南郡 和歌山県	24 時間	

美保空港事務所	☎ : 0859-45-6114	鳥取県 島根県	7:00-22:00	大阪空港事務所
広島空港事務所	☎ : 0848-86-8654	広島県	7:30-21:30	福岡空港事務所
岩国空港事務所	☎ : 0827-24-8224	山口県（北九州空港事務所の管轄に属する区域を除く。）	7:30-22:30	福岡空港事務所
徳島空港事務所	☎ : 088-699-6527	徳島県	7:00-21:30	大阪空港事務所
高松空港事務所	☎ : 087-879-6771	香川県	7:00-22:00	大阪空港事務所
松山空港事務所	☎ : 089-972-0393	愛媛県	7:30-21:30	福岡空港事務所
高知空港事務所	☎ : 088-863-2620	高知県	7:00-21:00	福岡空港事務所
福岡空港事務所 (24時間対応)	(平日 9:00~ 17:00) ☎ : 092-629-4012 (土日祝日、年末 年始) ☎ : 092-622-6529	福岡県（北九州空港事務所の管轄に属する区域を除く。）、佐賀県、長崎県のうち対馬市及び壱岐市	24時間	
北九州空港事務所	☎ : 093-473-1089	山口県のうち下関市、宇部市、長門市、美弥市及び山陽小野田市、福岡県のうち北九州市、行橋市、豊前市、京都郡及び築上郡	24時間	
長崎空港事務所	☎ : 0957-53-6901	長崎県（福岡空港事務所の管轄に属する区域を除く。）	7:00-22:00	福岡空港事務所
熊本空港事務所	☎ : 096-232-2854	熊本県	7:30-21:30	鹿児島空港事務所
大分空港事務所	☎ : 0978-67-3773	大分県	7:30-22:30	福岡空港事務所
宮崎空港事務所	☎ : 0985-51-2184	宮崎県	7:30-21:30	鹿児島空港事務所
鹿児島空港事務所 (24時間対応)	☎ : 0995-58-4461	鹿児島県	24時間	
那覇空港事務所 (24時間対応)	(平日 9時~17 時) ☎ : 098-859-5132 (上記以外) ☎ : 098-857-1107	沖縄県	24時間	